

授業調査からみた授業改善(Ⅲ)

[Improvement of lectures by student evaluation(Ⅲ)]

「2004年度～2008年度セミナー系科目の動向」

磯谷 彰男 原田 義久

1. まえがき

名古屋商科大学における学生による授業評価は授業改善を目的に他大学に先駆けて1990年から始まり、2009年で20年目を迎える。学生による授業評価は本学では授業調査とよばれ、集計結果は教員にフィードバックされている。授業調査による授業改善への活用については2002年度の調査結果を分析して報告した(文献1)。また、2003年度から2008年度までの講義科目についての動向を前報でまとめた(文献2)。本学ではセミナーの授業調査を2004年度からはじめた。本報は前報の続編として2004年度から2008年度までの5年間のセミナー系科目の授業調査結果をまとめたものである。授業調査の詳細については前報に記した。前報を参照されたい。

名古屋商科大学では開学の時点からセミナー教育を重視している。セミナー教育の位置づけについては名古屋商科大学の白書である「21世紀の大学像をめざして」に記した(文献3)。学生はそれぞれに優れた特性を有している。その特性を開花させるべく、「師弟同行」で人間的成長を促す全人教育を行なうこと、さらに「開拓魂」すなわちフロンティア・スピリットの育成が学是であり、それを推進する主要な場がセミナーである。本学におけるセミナーは座席がコの字型に配列されたセミナー専用の小教室で、教師と学生との双方向の質疑応答を重視して実施している。セミナーは大学でのセミナーは卒業時の1年間というのが一般であった時代から本学では大学2年次より卒業までの3年間にわたりセミナー教育を実施していた。

近年、高校教育と大学教育との落差が目立ち、大学側で新入学生のための導入教育する必要性が強く認識されるようになった。それに対応するため、本学では2002年度にセミナー制度の改革を行なった。入学時、すなわち1年次の前期に基礎セミナーを開設し、大学教育への導入教育を実施することになった。2006年には基礎セミナーで実施している内容を適切に表現する名称としてセミナー名を基礎セミナーから Vision Planning Seminar (以下、VPS) と変更した。VPSは新入学生全員を対象に履修必修となっており、大学側が自動的に学生を教員に振り分けている。

学生は1年次前期のVPSを終えると、1年次後期に学生自身が希望する教員のセミナーを選択し、セミナー1、2、3、4と進級し、3年次後期のセミナー5でセミナーは終了する。卒業論文はセミナー5で完成させる。外国語学部ではTutorialであり、Tutorial—VPS、Tutorial1～5と進級することになる。セミナー系科目とはVPS、セミナー、Tutorial—VPS、Tutorialの4科目を指す。

2. 授業調査票の設問

授業調査票としてはセミナー系科目VPS、セミナー、VPS—Tutorial、Tutorialそれぞれに適した調査票を作成している。授業調査票の設問は教務委員会やFD会で検討されている教育方

針の施行を支援することを意図し、設問は毎年見直している。2004年度（以後、西暦は04年度と下二桁で表記、図表のなかでは4年と下一桁で表記する）から08年度までのすべての設問を図表1に示す。図表で各設問の末尾の〔 〕に書かれた言葉は設問のキーワードである。授業調査票には記載されていない。本稿での説明をわかりやすくするため記載したもので、設問の番号の代わりに設問をキーワードで表示する。

なお、下記の設問はセミナー系調査票に共通している。

- [所属] (a) あなたの学部を教えてください。
(b) あなたの学年を教えてください。
(c) あなたの欠席回数を回答してください。

A：皆出席 B：1回欠席 C：2～3回欠席

[全体評価]

- (d) 先生の学生への対応には熱意が感じられた。
(e) 私はこのセミナーに満足した。
(f) 私はこのセミナーに熱心に取り組んだ。

[裏面]

- (1) このセミナーでよかった点をあげてください。
(2) このセミナーへの希望があれば記入してください。

また、評価する設問に対して次ぎの5段階となっている。

A：全くその通りである B：その通りである C：普通

D：そうではなかった E：全然そうではなかった

データ処理にあたってはA、B、C、D、Eをそれぞれ5、4、3、2、1とし、数値化している。

セミナー系科目それぞれの授業調査票を図表1に示す。VPSは図表1(a)、セミナーは図表1(b)、Tutorial—VPSは図表1(c)、Tutorialは図表1(d)である。

図表1(a) VPS授業調査票設問

この調査は、学生の意見を授業運営に反映させることを目的として行うものです。教員は調査結果を参考にして種々の工夫を重ね、よりよい授業運営に努めますので、皆さんからの誠実な回答と率直な意見を期待しています。なお、この結果は本学ホームページで公開されます。

回答方法：調査票の設問番号ごとのA～Eの欄に|を記入してください。

回答は一問一答をお願いします。

- (a) あなたの学部または所属大学を教えてください。 あなたの学部または所属大学を教えてください。
A：マーケティング学部 B：経営学部 C：経済学部 D：会計ファイナンス学部（平成20年度）
(b) あなたの学年を教えてください。
A：1年 B：2年 C：3年
(c) あなたの欠席回数を回答してください。
A：皆出席 B：1回欠席 C：2～3回欠席
設問には次の基準に従って教えてください。
A：全くその通りである B：その通りである C：普通
D：そうではなかった E：全然そうではなかった

番号 [設問項目]

- (1) 先生は新生が学生生活を始めるにあたって適切な助言をした。
(2) 先生はレポートの作成に関して適切な指導を行なった。
(3) 先生は就職や進学をはじめとする将来の進路に関して適切な説明をした
(4) このセミナーで本学の建学の精神であるフロンティア・スピリットや教育方針がわかりやすく説明された。
(5) 先生は前に踏み出す力の大切さを説明した。
(6) 先生は大学生としての自覚を促した。
(7) 先生は学修への取り組み方に関して適切な助言をした。

[設問のキーワード]

- [学生生活への助言]
[レポート指導]
[進路指導]
[フロンティア・スピリット]
[前に踏み出す力]
[大学生の自覚]
[学修への助言]

- | | |
|---|----------------|
| (8) 先生は学生に課題を与え、積極的に学ぶことを奨励した。 | [課題提示] |
| (9) 先生はセミナーで質疑応答の仕方やコミュニケーション能力向上のための指導をした。 | [質疑応答] |
| (10) 先生は情報センターの利用について適切な助言をした。 | [情報センター活用] |
| (11) 私はこのセミナーでコミュニケーション力が向上した。 | [コミュニケーション力向上] |
| (12) 先生はいろいろなことで相談ののってくれた。 | [相談] |
| (d) 先生の学生への対応には熱意が感じられた。 | [教員の熱意] |
| (e) 私はこのセミナーに満足した。 | [学生の満足度] |
| (f) 私はこのセミナーに熱心に取り組んだ。 | [学生の熱心度] |

図表1(b) セミナー授業調査票設問

- 前文、設問(a)～(c)はVPSと同じ
- | 番号「設問項目」 | [設問のキーワード] |
|---|----------------|
| (1) 先生は論文の作成に関して適切な指導を行なった。 | [論文指導] |
| (2) 先生は就職や進学をはじめとする将来の進路に関して適切な指導・助言をした。 | [就職指導] |
| (3) このセミナーで職業観を身につけることができた。 | [職業観] |
| (4) このセミナーで本学の建学の精神であるフロンティア・スピリットや教育方針を理解することができた。 | [フロンティア・スピリット] |
| (5) 先生は前に踏み出す力の大切さを説明した。 | [前に踏み出す力] |
| (6) 先生は大学生としての自覚を促した。 | [大学生の自覚] |
| (7) 先生は学修への取り組み方に関して適切な助言をした。 | [学修への助言] |
| (8) 先生は学生に課題を与え、積極的に学ぶことを奨励した。 | [課題提示] |
| (9) 先生はセミナーで質疑応答の仕方やコミュニケーション能力向上のための指導をした。 | [質疑応答] |
| (10) 私はこのセミナーでコミュニケーション力が向上した。 | [コミュニケーション力] |
| (11) 先生はセミナーで積極的に発言する機会を与えた。 | [積極的発言] |
| (12) 先生は情報センターの利用について適切な助言をした。 | [情報センター活用] |
| (13) 先生はいろいろなことで相談ののってくれた。 | [相談] |
| (d) 先生の学生への対応には熱意が感じられた。 | [教員の熱意] |
| (e) 私はこのセミナーに満足した。 | [学生の満足度] |
| (f) 私はこのセミナーに熱心に取り組んだ。 | [学生の熱心度] |

図表1(c) Tutorial-VPS授業調査票設問

- 前文、設問(a)～(c)はVPSと同じ
- | 番号「設問項目」 | [設問のキーワード] |
|---|----------------|
| (1) 先生は新入生が学生生活を始めるにあたって適切な助言をした。 | [学生生活への助言] |
| (2) 先生はレポートの作成に関して適切な指導を行なった。 | [レポート指導] |
| (3) 先生は外国語を学ぶ基本について適切な指導を行なった。 | [外国語基本指導] |
| (4) 先生は就職や進学をはじめとする将来の進路に関して適切な説明をした。 | [進路指導] |
| (5) 本学の建学の精神であるフロンティア・スピリットや教育方針がわかりやすく説明された。 | [フロンティア・スピリット] |
| (6) 先生は前に踏み出す力の大切さを説明した。 | [前に踏み出す力] |
| (7) 先生は学修への取り組み方に関して適切な助言をした。 | [学修への助言] |
| (8) 先生はコミュニケーション能力向上のための指導をした。 | [コミュニケーション能力] |
| (9) 先生は学生に課題を与え、積極的に学ぶことを奨励した。 | [課題提示] |
| (10) 先生はいろいろなことで相談ののってくれた。 | [相談] |
| (11) 先生は積極的な発言を促した。 | [積極的発言] |
| (d) 先生の学生への対応には熱意が感じられた。 | [教員の熱意] |
| (e) 私はこのTutorial-VPSに満足した。 | [学生の満足度] |
| (f) 私はこのTutorial-VPSに熱心に取り組んだ。 | [学生の熱心度] |

図表1(d) Tutorial授業調査票設問

- 前文、設問(a)～(c)はVPSと同じ
- | 番号「設問項目」 | [設問のキーワード] |
|--|---------------|
| (1) 先生は語学力向上のために適切な指導を行なった。 | [語学力向上] |
| (2) 先生は国際感覚の修得に関して適切な指導を行なった。 | [国際感覚] |
| (3) 先生は就職や進学をはじめとする将来の進路に関して適切な指導・助言をした。 | [進路指導] |
| (4) 先生は前に踏み出す力の大切さを説明した。 | [前に踏み出す力] |
| (5) 先生は大学生としての自覚を促した。 | [大学生の自覚] |
| (6) 先生は学生に課題を与え、積極的に学ぶことを奨励した。 | [学修への助言] |
| (7) 先生は学修への取り組み方に関して適切な助言をした。 | [課題提示] |
| (8) 先生はコミュニケーション能力向上のための指導をした。 | [コミュニケーション能力] |
| (9) 先生は積極的な発言を促した。 | [積極的発言] |
| (10) 先生はいろいろなことで相談ののってくれた。 | [相談] |
| (d) 先生の学生への対応には熱意が感じられた。 | [教員の熱意] |
| (e) 私はこのTutorialに満足した。 | [学生の満足度] |
| (f) 私はこのTutorialに熱心に取り組んだ。 | [学生の熱心度] |

3. VPS およびセミナーの集計結果と分析

(1) VPS

VPS の開講数は学生の増減により年度により少数の変動はあるが、08 年度では 25 である。学生から提出された調査票の総数（サンプル数）は 680 である。04 年度から 08 年度までの VPS の各設問の評価の値の集計結果を図表 2 (a) に示す。値は開講されたすべての VPS の平均値である。空白欄はその年度には設問がなかったことによる（以後同じ）。また、04 年度から 08 年度までの 5 年間の平均の値を平均ポイントとして示した。「学生の満足度」および「学生の熱心度」の平均ポイントは 3.81 と 3.71 となっている。それらの値は講義科目である教養教育科目と同レベルである。最も値の高い設問は「学生生活への助言」の 4.13 であり、「レポート指導」、「進路指導」も 4.0 と高い評価を受けている。学生の大学への導入教育に求められているそれらの設問の値が高いことは、VPS は所期の目的をほぼ達成していると考えてよいであろう。

学生は各設問に対して A、B、C、D、E で評価する。図表 3 (a) は 2008 年度前期の VPS の各設問について A、B、C、D、E の内訳を百分率で示したものである。またそれを棒グラフで表示したものが図表 4 (a) である。「学生の満足度」を A および B と評価している学生はそれぞれ 30% を超えており、VPS を満足と肯定的に評価した学生（以後 A + B と記す）は 64% となっている。D、E と満足度を否定的に評価した学生は合わせても（以後 D + E と記す）6% 弱と少数である。「学生の熱心度」について肯定的に評価している学生は 57% と半数を超えている。最も値の高い設問である「学生生活への助言」では肯定的な評価は 80% を超え、教員から学生への助言は適切に実施されている。

2008 年度前期の VPS の各設問間の相関を図表 5 (a) に示す。「学生の満足度」に関しては多くの設問で相関係数が 0.80 以上と高い相関を示している。最も高い相関は「教員の熱意」と「学生の熱心度」で 0.89 である。教員の熱意と学生が VPS に熱心に取組んだ相乗効果により高い満足度が生まれたのであろう。なお「学生の熱心度」と高い相関を示している設問は「学生の満足度」や「教員の熱意」である。

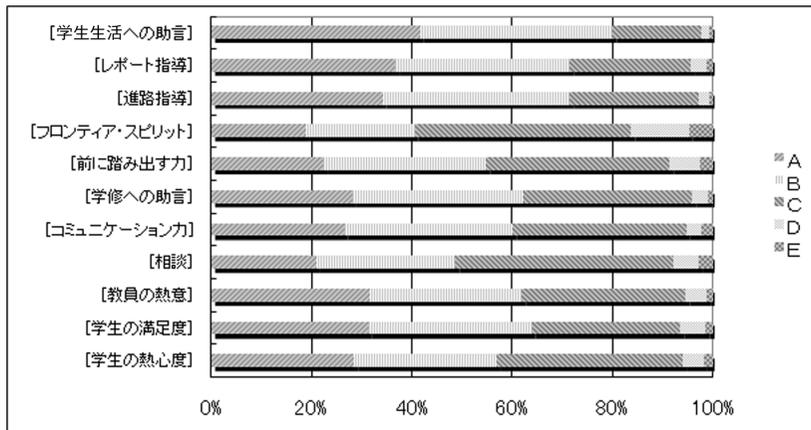
図表2(a) VPS設問の評価値

設問のキーワード	04前期	05前期	06前期	07前期	08前期	平均ポイント
学生生活への助言	4.17	4.21	3.99	4.08	4.19	4.13
レポート指導	4.04	4.1	3.82	3.9	4.03	3.98
進路指導	4.07	4.12	3.9	3.95	4.02	4.01
フロンティア・スピリット		3.63	3.35	3.39	3.39	3.44
前に踏み出す力					3.66	3.66
大学生の自覚		3.98	3.79	3.82		3.86
学修への助言	4.03	4.01	3.79	3.8	3.85	3.9
課題提示	3.81					3.81
質疑応答				3.68	3.79	3.74
コミュニケーション力			3.3			3.3
情報センター活用		3.73				3.73
相談	4.03	3.64	3.29	3.44	3.59	3.6
教員の熱意	3.89	3.93	3.73	3.78	3.87	3.84
学生の満足度	3.91	3.94	3.63	3.7	3.87	3.81
学生の熱心度	3.88	3.8	3.56	3.64	3.78	3.73

図表3(a) V P S の評価の比率(%)

設問のキーワード	A	B	C	D	E	平均ポイント
学生生活への助言	41.7	38.4	17.7	1.6	0.7	4.19
レポート指導	36.7	34.8	24.1	3.2	1.2	4.03
進路指導	34.2	37.3	25.7	2.1	0.7	4.02
フロンティア・スピリット	18.9	21.7	43.2	11.5	4.8	3.39
前に踏み出す力	22.4	32.4	36.6	6	2.6	3.66
学修への助言	28.2	34	33.8	3.2	0.9	3.85
コミュニケーション力	26.5	33.6	34.6	3	2.3	3.79
相談	21	27.7	43.4	5.1	2.8	3.59
教員の熱意	31.6	30.3	32.6	4.2	1.2	3.87
学生の満足度	31.3	32.6	29.6	5.1	1.4	3.87
学生の熱心度	28.5	28.3	37.1	4.2	1.8	3.78

図表4(a) V P S の評価比率のグラフ



図表5(a) 08年度前期授業調査票 VPS設問間の相関係数

	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
設問4		0.69	0.74	0.53	0.65	0.73	0.69	0.59	0.72	0.82	0.79
設問5			0.73	0.48	0.65	0.84	0.83	0.73	0.77	0.72	0.72
設問6				0.47	0.82	0.91	0.76	0.67	0.79	0.80	0.71
設問7					0.71	0.58	0.68	0.75	0.64	0.71	0.72
設問8						0.87	0.77	0.74	0.83	0.88	0.76
設問9							0.86	0.77	0.85	0.86	0.80
設問10								0.82	0.90	0.79	0.81
設問11									0.80	0.82	0.83
設問12										0.89	0.86
設問13											0.89
設問14											

設問項目

- 設問4 先生は新生が学生生活を始めるにあたって適切な助言をした。
- 設問5 先生はレポートの作成に関して適切な指導を行なった。
- 設問6 先生は就職や進学をはじめとする将来の進路に関して適切な説明をした。
- 設問7 このセミナーで大学の建学の精神であるフロンティア・スピリットや教育方針を理解することができた。
- 設問8 先生は前に踏み出す力の大切さを説明した。
- 設問9 先生は学修への取り組み方に関して適切な助言をした。
- 設問10 先生はセミナーで質疑応答の仕方やコミュニケーション能力向上のための指導をした。

- 設問11 先生はいろいろなことで相談にのってくれた。
 設問12 先生の学生への対応には熱意が感じられた。
 設問13 私はこのセミナーに満足した。
 設問14 私はこのセミナーに熱心に取り組んだ。

(2) セミナー

セミナー数は2008年度では60のセミナーが開講された。学生から提出された調査票の総数(サンプル数)は1141である(08年度後期)。04年度から08年度までのセミナーの各設問の集計結果を図表2(b)に示す。ほとんどの設問で平均ポイントは4.0以上であり、「学生の満足度」は4.27、「学生の熱心度」も4.19と高い。セミナー教育で力を入れている「論文指導」、「就職指導」、「学修への助言」は4.2以上となっている。学生への指導はかなりできていると考えてよいであろう。

図表3(b)は2008年度後期のセミナーの各設問についてA、B、C、D、Eの内訳を百分率で示したものである。またそれを棒グラフで表示したものを図表4(b)である。「学生の満足度」をAと評価している学生は50%を超えており、セミナーを肯定的に評価した学生は80%となっている。D、Eの否定的な評価の学生は合わせても3.3%と極めて少ない。25名のセミナー

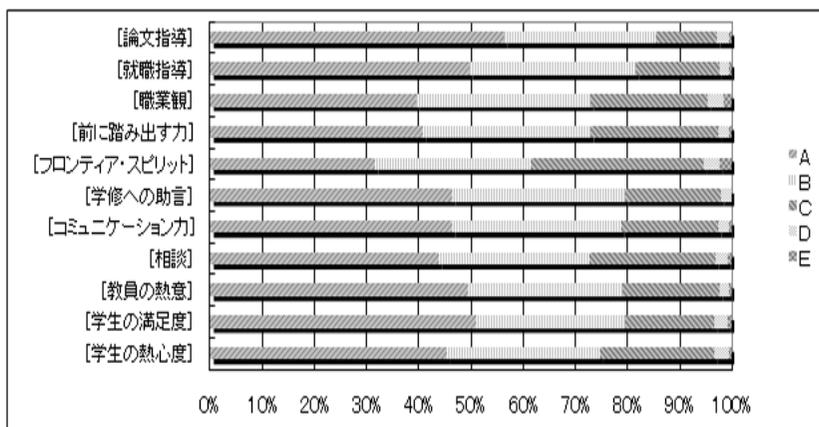
図表2(b) セミナー設問の評価値

設問のキーワード	04前期	04後期	05前期	05後期	06前期	06後期	07前期	07後期	08前期	08後期	平均ポイント
論文作成	4.18	4.39	4.41	4.44	4.38	4.38	4.25	4.33	4.27	4.38	4.34
就職指導	4.18	4.05	4.23	4.13	4.33	4.29	4.21	4.19	4.22	4.28	4.21
職業観			4.06	4.07	4.07	4.08	3.98	3.98	4	4.07	4.04
フロンティア・スピリット			3.82	3.93	3.88	3.94	3.75	3.89	3.79	3.85	3.86
前に踏み出す力									4.04	4.1	4.07
大学生の自覚	4.09	4.29	4.3	4.3	4.31	4.29	4.17	4.22			4.25
学修への助言	4.14	4.27	4.29	4.3	4.32	4.29	4.19	4.24	4.17	4.23	4.24
課題提示	4.04	4.36									4.2
質疑応答							4.18	4.24	4.15	4.22	4.2
コミュニケーション力					4.12	4.14					4.13
積極的発言	4.16	4.36									4.26
情報センター活用			3.96	4.01							3.99
相談	4.16	4.09	4.16	4.18	4.2	4.15	4.06	4.14	4.05	4.13	4.13
教員の熱意	4.28	4.24	4.32	4.34	4.35	4.29	4.2	4.23	4.18	4.25	4.27
学生の満足度	4.32	4.28	4.32	4.33	4.33	4.23	4.2	4.28	4.16	4.26	4.27
学生の熱心度	4.28	4.19	4.24	4.25	4.22	4.2	4.13	4.18	4.08	4.16	4.19

図表3(b) セミナーの評価の比率(%)

設問のキーワード	A	B	C	D	E	平均ポイント
論文指導	56.3	28.9	11.8	2.2	0.7	4.38
就職指導	49.7	31.9	15.9	2	0.5	4.28
職業観	39.6	33.4	22.5	3.1	1.5	4.07
フロンティア・スピリット	31.6	29.7	33.2	3.2	2.3	3.85
前に踏み出す力	40.7	32.2	24.4	2	0.7	4.1
学修への助言	46.4	33.2	18.3	1.7	0.4	4.23
コミュニケーション力	46.3	32.4	18.6	2	0.6	4.22
相談	43.8	28.8	24.4	2.3	0.8	4.13
教員の熱意	49.4	29.5	18.7	1.8	0.6	4.25
学生の満足度	51.1	28.3	17.3	2.4	0.9	4.26
学生の熱心度	45.4	29.3	21.9	2.6	0.7	4.16

図表4(b) セミナーの評価比率のグラフ



図表5(b) 08年度前期授業調査票 セミナー設問間の相関係数

	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
設問4		0.81	0.75	0.57	0.72	0.77	0.77	0.74	0.76	0.75	0.67
設問5			0.85	0.63	0.86	0.83	0.86	0.84	0.89	0.84	0.75
設問6				0.76	0.81	0.84	0.82	0.84	0.83	0.83	0.79
設問7					0.78	0.79	0.65	0.78	0.68	0.69	0.73
設問8						0.90	0.87	0.86	0.87	0.82	0.75
設問9							0.88	0.85	0.90	0.85	0.82
設問10								0.85	0.90	0.84	0.76
設問11									0.88	0.84	0.82
設問12										0.82	0.81
設問13											0.89
設問14											

設問

- 設問4 先生は論文の作成に関して適切な指導を行なった。
- 設問5 先生は就職や進学をはじめとする将来の進路に関して適切な指導・助言をした。
- 設問6 このセミナーで職業観を身につけることができた。
- 設問7 このセミナーで大学の建学の精神であるフロンティア・スピリットや教育方針を理解することができた。
- 設問8 先生は前に踏み出す力の大切さを説明した。
- 設問9 先生は学修への取り組み方に関して適切な助言をした。
- 設問10 先生はセミナーで質疑応答の仕方やコミュニケーション能力向上のための指導をした。
- 設問11 先生はいろいろなことで相談にのってくれた。
- 設問12 先生の学生への対応には熱意が感じられた。
- 設問13 私はこのセミナーに満足した。
- 設問14 私はこのセミナーに熱心に取り組んだ。

を例にとれば、A と評価した学生が 13 名、B が 7 名、C が 4 名、D + E が 1 名の構成となる。ほとんどの設問で A + B は 70% 以上となっている。D + E は 5% 以下である。

2008 年度前期の設問間の相関を図表 5 (b) に示す。「学生の満足度」に関しては VPS と同様、多くの設問で相関係数が 0.80 以上と高い相関を示している。最も高い相関は「学生の熱心度」で 0.89 である。学生がセミナーに熱心に取り組んだ結果として高い満足度が生まれたのであろう。最も相関の高いのは VPS と同様、「学生の熱心度」であり、0.89 となっている。

4. Tutorial – VPS および Tutorial の集計結果と分析

(1) Tutorial-VPS

VPS の開講数は 08 年度では 5 である。学生から提出された調査票の総数（サンプル数）は 112 である。04 年度から 08 年度までの VPS の各設問の評価の値の集計結果を図表 2 (c) に示す。04 年度から 08 年度までの 5 年間の平均の値を平均ポイントとして示した。「学生の満足度」および「学生の熱心度」の平均ポイントは 3.86 と 3.83 となっている。この値は講義科目の教養教育科目と同レベルである。Tutorial-VPS で特に重要と位置づけされている設問「学生生活への助言」、「レポート指導」、「進路指導」はいずれも 4.1 前後と高い評価を受けている。学生の大学への導入教育に求められているそれらの設問の値が高いことは、Tutorial-VPS においても所期の目的をほぼ達成していると考えてよいであろう。

2008 年度前期の集計結果を図表 3(c) に示す。また、棒グラフで表したものを図表 4(c) に示す。各設問について A、B、C、D、E の評価の内訳を百分率で示したものである。「学生の満足度」を A と評価している学生は 1 / 3 を超え、Tutorial-VPS を満足と肯定的に評価した学生(A + B)

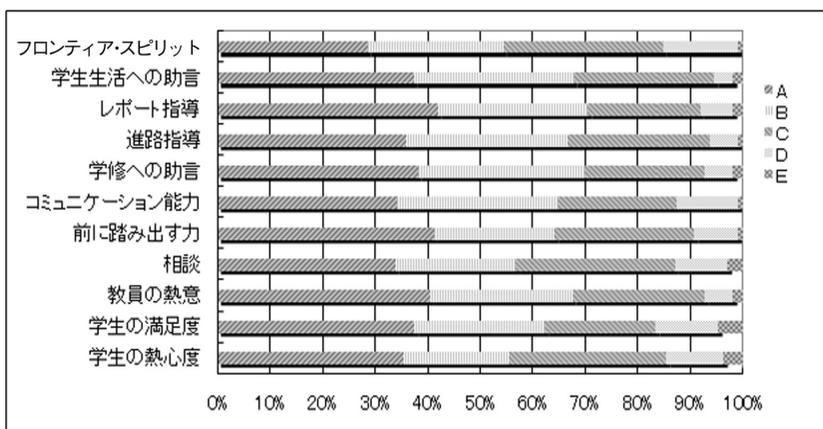
図表2(c) Tutorial-VPS設問の評価値

設問のキーワード	04前期	05前期	06前期	07前期	08前期	平均ポイント
学生生活への助言	4.16	4.24	4.32	3.9	3.98	4.12
レポート指導	4.17	4.26	4.36	4.11	4.03	4.19
外国語基本指導	3.78					3.78
進路指導	4.05	4.11	4.17	4.03	3.95	4.06
フロンティア・スピリット		3.84	3.73	3.44	3.67	3.67
前に踏み出す力					3.95	3.95
学修への助言	4	3.99	4.12	3.84	3.99	4
コミュニケーション能力				3.58	3.86	3.72
課題提示	3.97	3.89	4.14	3.97		3.99
相談	4.07	3.69	3.85	3.52	3.75	3.78
積極的発言		3.93	4.25			4.09
教員の熱意	4.04	4.04	4.28	4.1	3.99	4.09
学生の満足度	3.82	3.88	4.09	3.71	3.79	3.86
学生の熱心度	3.99	3.73	3.99	3.7	3.73	3.83
学生の熱心度	3.88	3.8	3.56	3.64	3.78	3.73

図表3(c) Tutorial-VPSの評価比率(%)

設問のキーワード	A	B	C	D	E	平均ポイント
フロンティア・スピリット	28.6	25.9	30.4	14.3	0.9	3.67
学生生活への助言	37.5	30.4	26.8	3.6	1.8	3.98
レポート指導	42	28.6	21.4	6.3	1.8	4.03
進路指導	36	30.6	27	5.4	0.9	3.95
学修への助言	38.2	31.8	22.7	5.5	1.8	3.99
コミュニケーション能力	34.2	30.6	22.5	11.7	0.9	3.86
前に踏み出す力	41.3	22.9	26.6	8.3	0.9	3.95
相談	33.9	22.9	30.3	10.1	2.8	3.75
教員の熱意	40.5	27	25.2	5.4	1.8	3.99
学生の満足度	37.6	24.8	21.1	11.9	4.6	3.79
学生の熱心度	35.5	20	30	10.9	3.6	3.73

図表4(c) Tutorial-VPSの評価比率のグラフ



図表5(c) 08年度前期授業調査票 Tutorial-VPS設問間の相関係数

	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
設問4		0.90	0.90	0.83	0.86	0.96	0.91	0.87	0.80	0.86	0.93
設問5			0.98	0.97	0.99	0.95	0.96	0.98	0.93	0.99	0.98
設問6				0.94	0.94	0.96	0.89	0.96	0.84	0.94	0.93
設問7					0.99	0.93	0.95	1.00	0.96	1.00	0.96
設問8						0.92	0.97	0.99	0.97	1.00	0.98
設問9							0.93	0.96	0.85	0.94	0.96
設問10								0.95	0.98	0.97	1.00
設問11									0.94	0.99	0.97
設問12										0.97	0.96
設問13											0.98
設問14											

設問内容

- 設問4 本学の建学の精神であるフロンティア・スピリットや教育方針がわかりやすく説明された。
- 設問5 先生は新入生が学生生活を始めるにあたって適切な助言をした。
- 設問6 先生はレポートの作成に関して適切な指導を行なった。
- 設問7 先生は就職や進学をはじめとする将来の進路に関して適切な説明をした。
- 設問8 先生はVPSで適切な指導を行なった。
- 設問9 先生は学修への取り組み方に関して適切な助言をした。
- 設問10 先生はコミュニケーション能力向上のための指導をした。
- 設問11 先生はいろいろなことで相談にのってくれた。
- 設問12 先生の学生への対応には熱意が感じられた。
- 設問13 私はこのTutorial-VPSに満足した。
- 設問14 私はこのこのTutorial-VPSに熱心に取り組んだ。

は62%となっている。D、Eと満足度を否定的に評価した学生(D + E)は16%となっているが、例年は数%である。「学生の熱心度」について肯定的に評価している学生(A + B)は56%と半数を超えている。「学生生活への助言」では68%と2/3の学生が肯定的な評価をしている。

2008年度前期の設問間の相関を図表5(c)に示す。設問間の相関は高く、ほとんどの設問で相関係数が0.90以上になっている。「学生の満足度」に関しては「進路指導」と「学修への助言」では相関係数が1.00となっている。すなわち「進路指導」や「学修への助言」は「学生の満足度」に直結している。また、「学生の熱心度」は「学生の満足度」と0.98の相関ではほぼ一致している。

(2) Tutorial

Tutorial 数は 2008 年度では 29 のセミナーが開講された。学生から提出された調査票の総数（サンプル数）は 309 である（08 年度後期）。04 年度から 08 年度までのセミナーの各設問の集計結果を図表 2 (d) に示す。5 年間の平均ではすべての設間で 4.0 以上のポイントとなっている。「学生の満足度」は 4.19、「学生の熱心度」も 4.14 と高い。Tutorial で力を入れている「語学力向上」、「コミュニケーション能力」は 4.2 以上となっている。学生への指導はほぼ満足できるものと考えてよいであろう。

2008 年度後期の集計結果を図表 3 (d) に示す。また、棒グラフで表したものを図表 4 (d)

図表2(d) Tutorial設問の評価値

設問のキーワード	04前期	04後期	05前期	05後期	06前期	06後期	07前期	07後期	08前期	08後期	平均ポイント
語学力向上	4.39	4.08	4.19	4.24	4.08	4.23	4.09	4.26	4.3	4.24	4.21
国際感覚	4.2	4.04	4.16	4.08	3.99	4.12	3.98	4.23	4.24	4.12	4.12
進路指導	4.15	3.83	4.13	4.02	4	4.05	3.96	4.11	4.22	4.08	4.06
前に踏み出す力									4.22	4.1	4.16
大学生の自覚	4.26	3.93	4.05	4.07	3.98	4.09	3.99	4.22	4.22	4.12	4.09
学修への助言	4.35	4.03	4.17	4.21	4.06	4.24	4.06	4.28	4.33	4.15	4.19
課題提示	3.96	4.13	4.28	4.23	4.09	4.25	4.12	4.31			4.17
コミュニケーション能力							4.11	4.34	4.34	4.22	4.25
積極的発言			4.22	4.2	4.12	4.3					4.21
相談	3.95	4.02	4.18	4.16	4.04	4.19	4.01	4.26	4.28	4.17	4.13
教員の熱意	4.08	4.17	4.31	4.3	4.19	4.31	4.12	4.35	4.41	4.26	4.25
学生の満足度	4.18	4.05	4.23	4.22	4.06	4.22	4.1	4.29	4.35	4.19	4.19
学生の熱心度	4.14	4	4.12	4.12	4	4.16	4.08	4.25	4.3	4.19	4.14
教員の熱意	4.28	4.24	4.32	4.34	4.35	4.29	4.2	4.23	4.18	4.25	4.27
学生の満足度	4.32	4.28	4.32	4.33	4.33	4.23	4.2	4.28	4.16	4.26	4.27
学生の熱心度	4.28	4.19	4.24	4.25	4.22	4.2	4.13	4.18	4.08	4.16	4.19

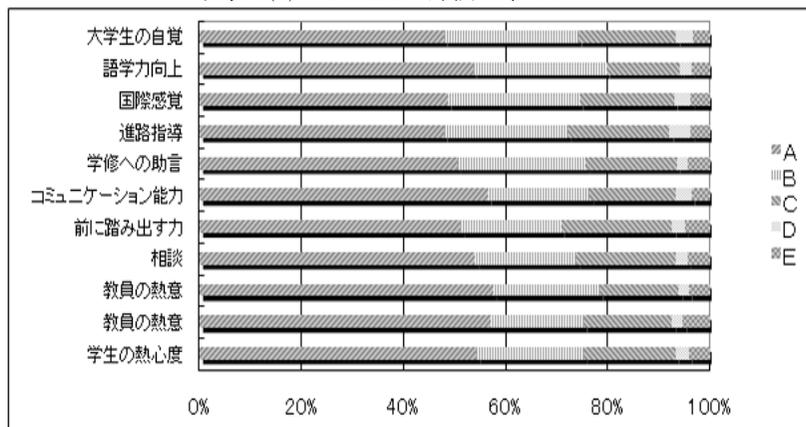
図表3(d) Tutorialの評価の比率(%)

設問のキーワード	A	B	C	D	E	平均ポイント
大学生の自覚	47.8	26.3	19.2	3.3	3.3	4.12
語学力向上	53.7	26	14.5	2.3	3.6	4.24
国際感覚	48.6	25.8	18.5	3.3	3.8	4.12
進路指導	47.8	24.3	19.9	4.1	3.8	4.08
学修への助言	50.6	25.1	17.9	2.1	4.4	4.15
コミュニケーション能力	56.5	19.9	16.9	3	3.7	4.22
前に踏み出す力	51.2	19.7	21.8	2.5	4.9	4.1
相談	54	19.8	19.5	2.3	4.4	4.17
教員の熱意	57.6	20.7	15.6	1.9	4.2	4.26
学生の満足度	57.1	18.1	17.4	2.1	5.3	4.19
学生の熱心度	54.3	21	17.9	2.6	4.2	4.19

に示す。「学生の満足度」を A と評価している学生は 60% 近く、セミナーを肯定的に評価した学生 (A + B) は 75% となっている。D、E の否定的な評価の学生 (D + E) は合わせても 8% と少数である。

2008 年度前期の設問間の相関を図表 5 (d) に示す。に関しては VPS と同様高い相関を示し、すべての相関係数が 0.90 程度である。「学生の満足度」と最も高い相関は「学生の熱心度」で 0.96 となっている。

図表4(d) Tutorialの評価比率のグラフ



図表5(d) 08年度前期授業調査票 Tutorial設問間の相関係数

	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13	設問14
設問4		0.96	0.98	0.95	0.94	0.91	0.93	0.88	0.92	0.88	0.89
設問5			0.96	0.93	0.92	0.90	0.91	0.87	0.90	0.88	0.89
設問6				0.95	0.93	0.92	0.93	0.87	0.92	0.89	0.89
設問7					0.93	0.91	0.93	0.88	0.91	0.88	0.87
設問8						0.96	0.97	0.93	0.96	0.95	0.94
設問9							0.94	0.88	0.94	0.95	0.91
設問10								0.92	0.94	0.94	0.93
設問11									0.92	0.93	0.94
設問12										0.92	0.90
設問13											0.96
設問14											

設問項目

- 設問4 先生は大学生としての自覚を促した。
- 設問5 先生は語学力向上のために適切な指導を行なった。
- 設問6 先生は国際感覚の修得に関して適切な指導を行なった。
- 設問7 先生は就職や進学をはじめとする将来の進路に関して適切な指導・助言をした。
- 設問8 先生は学修への取り組み方に関して適切な助言をした。
- 設問9 先生はコミュニケーション能力向上のための指導をした。
- 設問10 先生は前に踏み出す力の大切さを説明した。
- 設問11 先生はいろいろなことで相談にのってくれた。
- 設問12 先生の学生への対応には熱意が感じられた。
- 設問13 私はこのTutorialに満足した。
- 設問14 私はこのTutorialに熱心に取り組んだ。

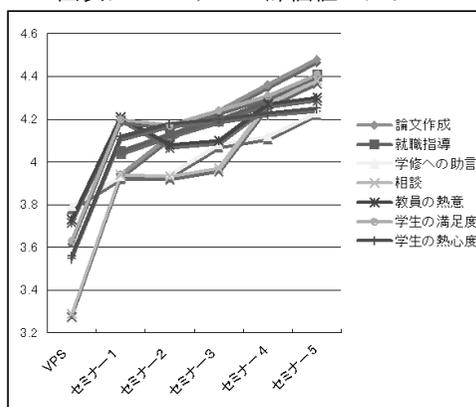
5. セミナー昇級による動向

セミナーの各設問の評価値は図表2 (b) に示されるように調査年度、前期、後期によって0.2ポイント程度の変動がある。その理由の一つに教員の新任や退任がある。同一の教員が担当しているセミナーについてセミナー1からセミナー5までの変化の挙動について06年度入学の学生を対象として調査した。同一の教員が担当したセミナー数は20である。セミナー授業調査票で毎年実施している代表的設問を7つ選び、20セミナーについて集計した値を図表6に示す。またそれをグラフで表示したものを図表7に示す。なお、図表6、7にはセミナーと共通しているVPSでの設問の値も付け加えた。VPSと較べてセミナー1では「教員の熱意」、「学

図表6 セミナー昇級による変化

	VPS	セミナー1	セミナー2	セミナー3	セミナー4	セミナー5
論文作成		3.94	4.12	4.24	4.36	4.48
就職指導		4.05	4.13	4.2	4.28	4.41
学修への助言	3.79	3.93	3.94	4.08	4.12	4.23
相談	3.29	3.94	3.93	3.97	4.27	4.38
教員の熱意	3.73	4.21	4.08	4.1	4.27	4.3
学生の満足度	3.63	4.2	4.17	4.24	4.31	4.41
学生の熱心度	3.56	4.12	4.18	4.2	4.23	4.25

図表7 セミナーの評価値のグラフ



生の満足度]、「学生の熱心度」のいずれの評価値も 0.5 以上高くなっている。セミナーは学生自身が選択したものであり、学生の意気込みを示しているのもであろう。

セミナーが1から5まで昇級にするにしたがって全体的には右上がりでも上昇している。個々の学生と教員との接触の密度が高まっていることが推測される。特にセミナー5では卒業論文の作成指導や就職面談指導も本格化し、「論文指導」や「就職指導」評価の値も4.4以上と極めて高くなっている。その結果として「学生の満足度」も4.4を超えている。セミナーによっては「学生の満足度」がほぼ5に近いところもある。

6. まとめ

本報告は最近の5年間、04年度から08年度までのセミナー系科目の授業調査の結果をデータ集の形で提示したものである。それらのデータから学生のセミナー教育への対応の全体像が把握できた。

VPS、Tutorial— VPSでは大学で学ぶための導入教育が中心であり、教育は教員からの一方向性の傾向が強い。しかし、導入教育は学修方法の定石を身につけさせるための必要な教育であり、必ずしも楽しいことばかりではない。VPSがセミナーと比べれば値が低く、教養教育科目レベルであるが、妥当な値であろう。

セミナー、Tutorialではほとんどの設問に対して4.0以上の高い値となっている。80%以上の学生がセミナー担当教員と密な信頼関係を築いていると推測される。「師弟同行」が満足で

きるレベルで実現できていると考えてよいであろう。特にセミナー5で高くなるのは論文の作成指導や就職面談指導などで一層緊密な関係になっていることを示している。

7. あとがき

本報は、授業調査委員会委員長磯谷彰男（教務委員会委員兼務）と教務委員会委員長原田義久（授業調査委員会委員兼務）がそれぞれの立場から授業改善を意図して起稿した。教員各位にいささかなりとも授業推進するうえで参考になるところがあれば幸いである。

最後に名古屋商科大学における授業調査システムの構築と定着・運用に尽力された栗本宏学長、FD推進委員会委員長である小橋哲会計ファイナンス学部長、元教務委員長である垣谷宏子学長補佐を始めとする関係各位、また2003年度以降の授業調査委員会委員である経営学部妹尾稔教授、経済学部加藤昌彦教授、外国語学部植村猛教授、同部二神真美教授、さらに膨大なデータの処理を担当された杉浦学学生支援部門長をはじめとする関係各位に深甚なる謝意を表します。

参考文献

- (1) 磯谷彰男「授業調査からみた授業改善の一考察」Nucb Journal of Economics and Information Science vol.48 No.1（2003）
- (2) 磯谷彰男、原田義久「授業調査からみた授業改善（Ⅱ）」Nucb Journal of Economics and Information Science vol.54 No.1（2009）
- (3) 名古屋商科大学「21世紀の大学像をめざして」（2000）